

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立湖東中学校

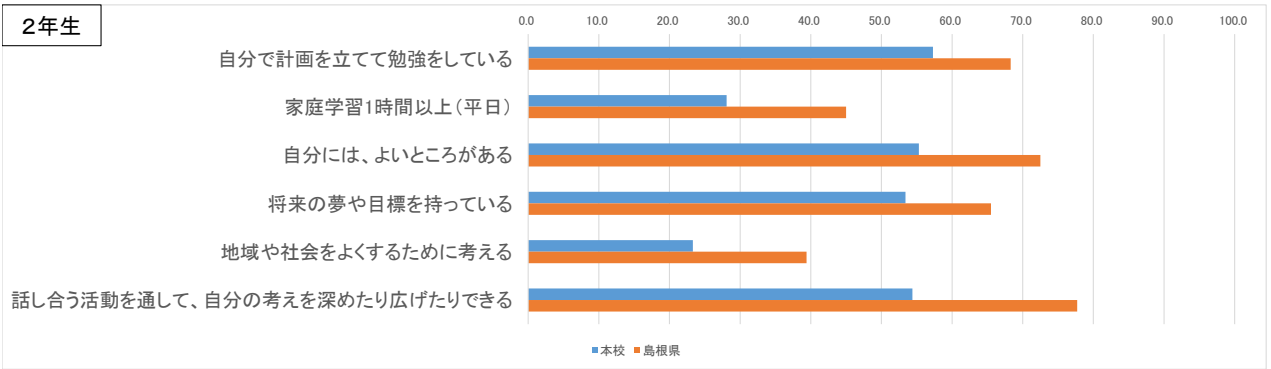
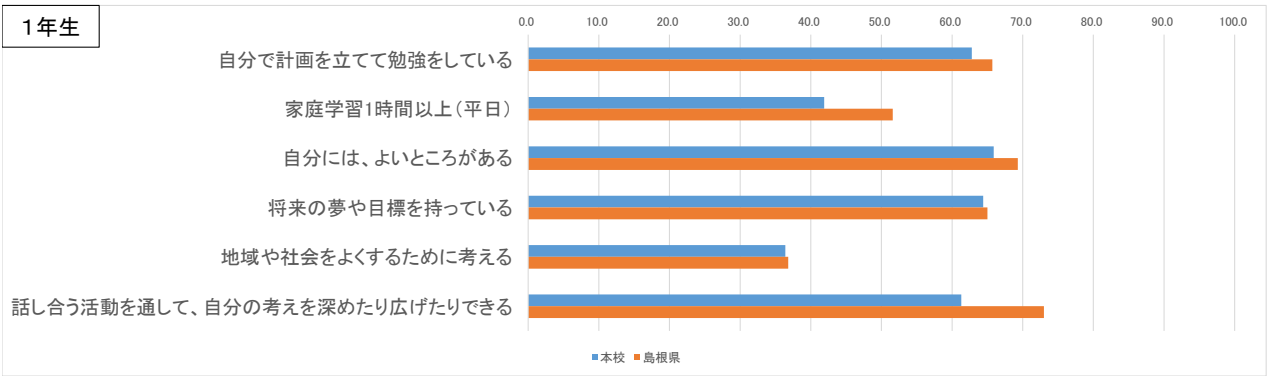
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域における正答率は目標値に達しており、基礎的な学力は定着している。 ●「我が国の言語文化に関する事項」は目標値を約23点と大きく下回っており、古典や昔の言葉を読むのに課題が見られる。 ●「情報の扱い方」の正答率が目標値を下回り、情報の整理や活用の問題に対して課題が見られる。	○我が国の言語文化に関する事項、漢字の読み、文法・語句に関する事項についての正答率は、おおむね目標値に達している。 ●情報の扱い方に関する事項の正答率が目標値を大きく下回っている。 ●書くことの正答率が目標値を大きく下回っており、指示に沿って文章を書く力に課題がある。 ●漢字を書くことの正答率が目標値を大きく下回っており、学習内容が十分に定着していない。
数学	○「正の数・負の数」の領域における正答率は、おおむね目標値に達している。 ●「文字式」「平面図形」の領域では、目標値を大きく下回っている。 ●基礎学力・基礎計算力を定着させる必要がある。	○「主体的に学習に取り組む態度」については前年度の平均よりも向上した。 ●すべての観点において目標値を大きく下回っている。 ●基礎学力や基礎計算力を定着させるための手立てを講じるとともに、反復練習を意識した演習を充実させる必要がある。また、学校での学習だけでなく、家庭学習へ計画的・継続的な取組を推進するための支援が必要である。
英語	○リスニングの内容理解は概ね目標値に達している。 ○語形、語法の知識は目標値を上回っているため、基礎的な語彙力は定着している。 ●文章の読み取りにおける正答率は目標値を下回っているため、文章を読み取るための力をつける必要がある。	●「書くこと」の領域における正答率は、目標値を特に大きく下回っている。 ●語形・語法の基礎的な知識理解、基礎的な語彙力を定着させる必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題） ※学校全体として

	1年生	2年生
意識	○家庭で家族とともに、朝食、夕食を食している生徒は多く、保健指導の成果が出ていると考える。 ●起床、就寝に関してのコントロールができていないために、規則正しい生活が十分に身に付いていないと考える。 ●家庭学習の場所、用具は準備されていても、主体的な学びの行動に結びついておらず家庭への啓発をしていく必要があると考える。 ●ネットゲームに対して、自己コントロールしながら使用できていないことが、家庭学習の時間低減につながっていると考える。	○家庭で家族とともに、朝食、夕食を食している生徒は多く、保健指導の成果が出ていると考える。 ●起床、就寝に関してのコントロールができていないために、規則正しい生活が2年生であつても十分に身に付いていないと考える。 ●家庭学習の場所、用具は準備されていても、主体的な学びの行動に結びついておらず家庭への啓発をしていく必要があると考える。 ●ネットゲームに対して、自己コントロールしながら使用できていないことが、家庭学習の時間低減につながっていると考える。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 101 名 2年生 128 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)